

図書館だより

菊里高等学校
令和4年 7月



夏休み特別貸出 5冊まで

貸出期間は2週間（期限を守りましょう）

皆さんがこのルールを守ることによって、多くの方が読みたい本を手に入れやすくなります。ぜひ協力してください！

ビブリオバトル開催します！

日時:7月13日(水) 15:50開始

場所:本校図書館閲覧室

お気に入りの本を6名の生徒が紹介します！ぜひ、聞きにきてください。

★夏休みの図書館開館日★

7月～8月の平日は開館します！

【7月22日(金)と学校閉庁日8月15日(月)～19日(金)除く】

開館時間: 9時から12時20分まで

図書館には「大学入試で取り上げられた本」コーナーなど様々な意図があります。ぜひ、利用してください。本の検索こちら→

★「夏休みは読書するぞ！」という人

いよいよ夏休みです。40日もあれば、勉強や部活動以外の時間で多くの本が読めます。この機会に本を読んでみませんか。図書館には様々な興味深い本がたくさんあります。あなたをより豊かに、そしてより思慮深くする本を積極的に見つけ出してください。

★「夏休みは勉強するぞ！」という人

図書館で勉強しましょう。例年多くの先輩が図書館で猛勉強をして成果を出してきました。涼しく、落ち着いた環境なので、集中して勉強に取り組むことができます。しっかりとした学習計画をたて、図書館を有効利用して着実に学習をすすめてみましょう。



★「小論文の力をつけるぞ！」という人

ジャンルも豊富な、充実した小論文コーナーがあります。時間のあるこの時期に、小論文対策にも取り組んでみましょう。

直木賞作家 今村翔吾さん来校！

日時:7月26日(火) 13:15受付開始

場所:本校図書館閲覧室

今村先生が全国の図書館や書店を訪れる「まつり旅」を開催中です。本校にも来校されます！観覧者の募集は終了しました。観覧申込みの済んでいる生徒は、時間に遅れないように集合してください。

★新着図書紹介★

『両手にトカレフ』 ブレイディ



イみかこ 寒い朝、14歳のミアは、短くなったスカートをはき、図書館の前に立っていた。そこで「カネコ

フミコ」の自伝に出会ったことで、彼女の世界は変わっていく。『僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー』の著者が、理不尽な世の中で生きざるを得ない少女に心を寄せて描く渾身の小説。

『爆弾』 呉勝浩 東京、炎上。



正義は守れるのか。些細な傷害事件で、とぼけた見た目の中年男が連行された。たかが酔っ払いと見くびる警察だが、男は取り調べの最中、「十時に秋葉原で爆発がある」と予告する。直後、秋葉原で爆発。さらに予告は続く。爆弾魔の悪意に戦慄するノンストップミステリー。

『くるまの娘』 宇佐美りん



のくるまの娘 17歳のかんこたち一家は、久しぶりの車中泊の旅をする。思い出の景色は、家族のままならなさの根源にあるものを引きずり出していく。教育虐待、ヤングケアラーの問題を、主人公かんこの目が、あぶりだしていく。庇護すべきは子どもではなく、親である、という現実を、かんこはどう受け止めていくのか。痛々しく悲しい小説。ぜひ。

『はたらく細胞』 清水茜



1 人間一人当たりの細胞の数、およそ60兆個！そこには細胞の数だけ仕事（ドラマ）がある！ウィルスや細胞が体内に侵入した時、アレルギー反応が起こった時、けがをしたときなど、白血球と赤血球を中心とした体内細胞の底知れぬ活躍を描いた「細胞人化漫画」の話題作。

『未来をつくる評論文 読書案内』 小池陽慈



大学入試に出される評論文は、なぜ難解なものが多いのか？それは、その多くが「世界に山積される数多くの課題」に取り組む上で必要とされるものだから。評論を読み解くことは、世界をよきものにするための最良の独学の道である。国民国家、グローバリゼーション、新自由主義、ポピュリズム世界の今を知り未来を作る読書案内。

『宙ごはん』 町田そのこ



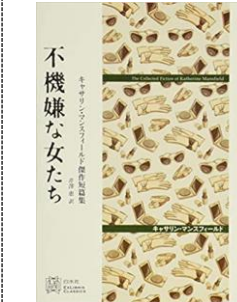
この物語は、あなたの人生を支えてくれる。宙には育ててくれている「ママ」と産んでくれた「お母さん」がいる。でもそれはいつまでもは続かなかった。手をさしのべてくれたのは、商店街のピストロで働く佐伯だ。佐伯はとおきのパンケーキを作ってくれ、レシピまで教えてくれた。宙は教わったレシピをノートに書き留め続けた。どこまでも温かく、やさしい希望の物語。

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』 帯木蓮生



「ネガティブ・ケイパビリティ（負の能力、もしくは陰性能力）」は詩人キーツが作った言葉。「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」「性急に証明や答えを求めず、不確かさや不思議さ、懐疑の中にあることができる能力」大阪大学の昨年の入試問題にもなった、いま、まさに話題の概念を学ぼう。

『不機嫌な女たち』 キャサリン・マンズフィールド



「些細な出来事によって人生の重大事に気づく」マンズフィールドは、このような視点で世界を捉える。ヴァージニア・ウルフが「私のライバル」と最大限の賛辞を呈した短編の名手の作品集。優れた短編は最後の一行で世界がぐるりと反転する。脳内アトラクションとでもいえるその至福の瞬間を味わってみよう。